

今年度業績一覧

書籍

- ・「第五章 発達初期の自閉スペクトラム症の子どもと親を対象とした早期支援プログラムAPPLEの開発」
藤田久美, 永瀬開, 井辺和杜, 横山順一
『現代保育内容研究シリーズ8 現代保育の理論と実践II』一藝社 2023年11月

論文

- ・Characteristics and parental maltreatment of kindergarten and nursery school children with special needs in Japan
Kai Nagase, Kazuto Imbe, Junichi Yokoyama, Kumi Fujita, Frontiers in Education, 2024年3月(投稿中)
- ・「[気になる子ども]の保育に関する研修・相談支援体制ー保育施設の管理者・主任に向けたアンケート調査の結果からー」
井辺和杜, 横山順一, 永瀬開, 藤田久美, 『山口県立大学社会福祉学部紀要』2024年3月
- ・「保育施設における障害のある子どもと[気になる子ども]の理解と支援: 保育施設が抱える課題と保育者の専門性に焦点を当てて」
永瀬開, 横山順一, 井辺和杜, 藤田久美, 『チャイルド・サイエンス』27巻, 2024年3月

学会発表

- ・「自閉スペクトラム症幼児の早期支援のあり方: 人とかかわりや社会的遊びをつくりだす支援をもとに」
藤田久美, 永瀬開, 横山順一, 井辺和杜 日本乳幼児教育学会33回大会 2023年12月10日

- ・「保育施設における研修・相談支援体制ー「気になる子ども」の保育に関するアンケート調査の結果からー」
井辺和杜, 横山順一, 永瀬開, 藤田久美 日本乳幼児教育学会33回大会 2023年12月10日
- ・「[気になる子ども]支援における保育者の専門性の検討」
永瀬開, 横山順一, 井辺和杜, 藤田久美 日本乳幼児教育学会33回大会 2023年12月10日

実践報告

- ・「子ども家庭福祉に携わる支援者の専門性向上に向けた大学の貢献ー山口県立大学社会福祉学部附属子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所の取組からー」
横山順一, 藤田久美, 永瀬開, 大石由起子, 井辺和杜,
『山口県立大学社会福祉学部紀要』2024年3月

その他

- ・令和5年度 キャリアアップ研修 参考資料「調査」山口県の保育現場における子ども家庭の質向上に関する研究 調査報告(第一報)
子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所 2023年8月
- ・「2023年度 前期 山口県立大学 社会福祉学部附属 子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所 事業活動報告」
子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所 2023年9月
- ・「2023年度 後期 山口県立大学 社会福祉学部附属 子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所 事業活動報告」
子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所 2024年3月

研究所事業への1年間の参加者人数

山口県の子ども家庭支援に携わる人材育成

- ・キャリアアップセミナー参加者……………74人
- ・YPU保育者ステップアップセミナー参加登録者数…110人
- ・YPU保育者ステップアップセミナー視聴回数……………1171人
(当日・ビデオ視聴者数含む)
- ・保育士資格取得を支援した学生……………のべ59人
- ・学生子ども家庭ソーシャルワーカー(学生スタッフ)登録数…62人

山口県の子ども家庭福祉問題の対応・課題解決に向けた地域連携

プロジェクト名	参加学生(人)	参加された地域の方々(人)
はぴあゆい	106	102
いまそら	79	2
APPLE	19	10
BRIDGE	11	8
LIEN	1	22
ママかんフリーカフェ(Yucca事業協力)	15	81
スマイルピアカン(Yucca事業協力)	15	32
壁面装飾グループぬりかべさん	20	
計	302	257(内子ども110)

地域の方の感想

仕事が終わった後にお話を聞けることがとてもよかったです。様々な分野から興味深いお話を聞くことができ、たくさんの気づきをいただきました。これからの保育に活かしていこうと思います。
(「YPU保育者ステップアップセミナー」参加 保育士)

親子で楽しく参加できました。わらべ歌に合わせて体を動かすことで子どもの笑顔がたくさん見ることができました。家でもやってみたいです。また他のお母さんと話すことでリフレッシュできました。
(「はぴあゆい」参加 保護者)

重度の子どもの支援にかかわる自分の能力の足りなさを実感していたが、みなさんとの対話の中で、子どもとのかかわりに真剣に向き合っている自身を認め、ポジティブに考えることも大切だとわかった。子ども一人ひとりで対応の仕方が異なるので、反応を見ながら遊びや活動を設定したい。
(「LIEN」参加 児童発達支援センター児童指導員)

学生子ども家庭ソーシャルワーカーの感想

親のような自分のことを一番わかっている人と自分が思っている自分の性格は一致しているかを考えました。特別支援学校の生徒さんと家族とのグループワークを通して改めて自分のことを考えることも出来ました。(「BRIDGE」参加 2年生)

今後の「いまそら」の活動において参考になる企画や事例があり、とてもよい学習会となりました。「いまそら」の活動をより良いものにしていくためにも、さらに学びを深めていきたいと考えています。
(「いまそら学習会」参加 2年生)

様々な年齢、発達のお子さんと関わって、とてもいい時間を過ごすことが出来ました。準備段階から「はぴあゆい」に関わらせていただいて、その中で参加されるお子さんの成長を感じることも多かったです。たくさんの笑顔を見せてくれる子どもたちにたくさんの癒しをもらいました。普段はかかわることの少ない大学生と乳幼児が関わって、お互いが楽しく過ごして成長できる場に参加できてよかったです。
(「はぴあゆい・スマイルピアカン・ママかん」参加 4年生)

編集後記

本年4月に開所した研究所ですが、無事に一歳を迎えることができそうです。調査研究、人材育成、そして地域連携の三本の柱となる活動を充実した内容にできたのも、様々な方にご協力いただいた結果だと感じています。これまでの活動をより発展させていくと共に、新たな課題の解決に向けた取り組みもまた探索的に実施していきます。引き続き来年度も子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所をよろしくお祈りします。

発行
山口県立大学社会福祉学部附属
子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所
〒753-0021
山口県山口市桜島6丁目2-1
山口県立大学1号館A406
令和6年3月31日

大学のHP・
ブログは
こちらから



山口県立大学 社会福祉学部附属

2023年度
後期

子ども家庭ソーシャルワーク 教育研究所 事業活動報告



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

～すべての子どもと家族の幸福の実現を目指して～

はじめに

令和5年4月に山口県立大学社会福祉学部附属「子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所(以下、研究所)」が開所しました。研究所では、山口県の子どもと家族の幸福の実現のための教育研究を行うことを目的とし、調査研究、人材育成、地域連携の3つの事業をすすめています。本報告パンフレットでは、大学行事への参加、3つの事業の活動報告、山口県乳幼児の育ちと学び支援センターとの連携、学生子どもソーシャルワーカーの活躍の様子等、後期半年間の活動の様子を報告します。

大学のイベント等への協力

グローバル学生交流事業(国際交流)

6月30日に、曲阜師範大学(中国)と慶南大学校(韓国)からの大学生と交流しました。学生子ども家庭ソーシャルワーカーが企画して運営しました。わらべ歌や神楽、手話、折り紙の活動を通して親交を深めました。



地域交流イベント「県大見本市」

9月22日、山口県立大学にて開催された「県大見本市」に参加しました。プログラムにはプレゼンテーションとブース展示があり、プレゼンテーションでは藤田所長が写真やビデオをふんだんに盛り込んだスライドをもとに研究所の活動を紹介しました。その後のブース展示では、関心を持って来てくれた方々にポスターを見せながら研究所の活動について紹介しました。研究所の幅広い活動を様々な方々にも知っていただく良い機会となりました。



オープンキャンパス

8月6日、研究所もイベントに参加し、高校生や保護者さんに研究所の役割や学生子ども家庭ソーシャルワーカーの活動内容について説明しました。ほかに、受験相談や、山口県立大学での学生の様子などについてもお答えしました。多くの高校生、保護者さんに学生子ども家庭ソーシャルワーカーについて知っていただくことが出来ました。



学内学会

10月21日に開催された社会福祉学内学会では、開所したばかりの研究所の活動紹介をさせていただきました。また、研究主任の横山順一准教授が「近年の子ども・家庭福祉の動向から～新しい制度・施策・資格制度～」をテーマに基調講演を行いました。本学部の新たな取組である研究所について、卒業生の皆様にお伝えすることができました。

創立80周年記念式典

本学は、1941年(昭和16年)に山口県立女子専門学校として産声を上げ、2006年(平成18年)の独立行政法人化を経て、2021年(令和3年)5月に創立80周年を迎えました。令和5年11月11日に山口市民会館で記念式典が開催されました。研究所の紹介ブースを小ホール展示スペースに設置し、来場された多くの方に研究所の取組を知っていただくことができました。

山口県乳幼児の育ちと学び支援センターとの連携

研究所は、山口県の子どもと家族の幸福の実現のために、「山口県乳幼児の育ちと学び支援センター(通称:乳幼セ)」と連携をはかりながら、子ども家庭福祉問題に対応できるソーシャルワークの知識と技術を兼ね備えた子ども家庭支援に携わる専門家の育成のための教育研究を行っています。今年度は藤田所長が乳幼セ主催の保育者対象の研修会講師の依頼を7回受け専門分野に係る幼児教育アドバイザーとして講師を務めました。2024年度は、8月31日に山口県立大学で開催する「保育者フェスタ2024」の企画・運営等、乳幼セとの共催による「明日からの保育に活かせる実技や講義のワークショップ」を計画中です。



山口県政策企画課主催の秋田喜代美氏との意見交換会

1月9日に、山口県人づくりアドバイザー秋田喜代美氏(学習院大学教授)を交えた山口県政策企画課主催の意見交換会に藤田所長、横山研究主任、永瀬研究員、井辺研究員が参加し、研究所の活動報告および今後の活動に向けた意見交換を行いました。秋田先生には本研究所の取り組みについてお聞きいただき、大学所属という強みだが、課題の発見→解決に向けた実践へのサイクルを成立させており、このようなサイクルがうまく循環する援助のあり方は理想的だとのコメントをいただきました。さらに、学生が主体となったボランティアによって、多様な年齢層が参加する場が生まれる点についても評価いただきました。活動報告ののちの意見交換では、研究員からの質問にお答えいただきました。研究所が重視する保育の場におけるソーシャルワーク機能の充実に関するご質問の応答など、今後の研究所の方向性を考える上でとても意義のある時間になりました。



2023年度 後期 子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所の活動

Project 1 山口県子ども家庭福祉のための 調査研究

山口県における保育所・幼稚園・認定こども園における困難な状況を抱える子ども家庭に対応できる保育者の専門性に関する園の意識(実態)調査として、管理者(施設長・主任保育者)対象の【調査I】、保育者(クラス担任)対象の【調査II】を実施しました。

調査結果は、「保育者のためのキャリアアップ研修」で参加者に調査報告(第一報)として配付されるとともに、学会口頭発表2件(日本乳幼児教育学会(2023年12月))、および学会誌「チャイルド・サイエンス」(「保育施設における障害のある子どもと「気になる子ども」の理解と支援 — 保育施設が抱える課題と保育者の専門性に焦点を当てて —)、「山口県立大学社会福祉学部紀要」(「気になる子ども」の保育に関する研修・相談支援体制 — 保育施設の管理者・主任に向けたアンケート調査の結果から —)において公表しました。

開設初年度において、山口県内の全ての保育現場を対象とした大規模調査を実施し、50%近い回答率が得られたことは一定の成果であったと言えます。得られた結果の一部は年度当初の計画どおり、研究所が主催した研修会において保育者に還元するとともに、学会における口頭発表(3発表)、および学会誌への論文投稿など、研究機関としての一定の役割が果たせたものと思われま。

「保育所・幼稚園・認定型子ども園における困難な状況を抱える子ども家庭に対応できる保育者の専門性に関する園の意識(実態)」をテーマに大規模な実態調査を行い、結果の分析をとおして、保育現場にある諸課題が可視化されてきました。その中でも、保育現場がかかえる今日的課題、例えば、多様なニーズをかかえる子どもへ組織的な対応、個々の保育者のスキルアップの問題、保育現場の労働環境の問題等がみられています。

こうした課題の中から、次年度の研究活動に向け新たなテーマの選定を行いたいと考えています。調査研究の実施と、結果の地域及び本学教育への還元は大学附属の研究機関の大きな強みであります。今後もこの強みを生かし、支援者の専門性の向上や子ども家庭支援のあり方の探求に向けて、調査研究を実施していきたいと考えます。

Project 2 山口県の子ども家庭支援に携わる 人材育成

YPU 保育者ステップアップセミナー

YPU保育者ステップアップセミナーは、幼稚園・保育園・認定こども園等に勤務する保育者を対象としたリカレント教育を行うことを主な目的として実施しています。後期は5回配信いたしました。

- 第5回 10月20日 「保育者のための子ども家庭支援に関わるソーシャルワーク入門」 横山 順一
- 第6回 11月17日 「保育者のための障害福祉入門」 勝井 陽子
- 第7回 12月15日 「保育者のためのカウンセリング入門」 大石 由起子
- 第8回 1月19日 「保育者のための保育・教育原理」 井辺 和社
- 第9回 2月16日 「保育者のためのソーシャルワーク入門」 長谷川 真司

1年間で登録者数110名 当日視聴のべ367名 ビデオ聴者数のべ1171名と大変多くの方に視聴いただきました。来年度も内容をレベルアップして行う予定です。

YPU保育者ピアカンファレンス



参加した皆様と実践を語り合う場を設けました。

第1回 10月27日 第2回 1月26日

Project 3 山口県の子ども家庭福祉問題への対応・解決に向けた 地域連携 — 子ども家庭しあわせプロジェクト —

いまさら

「いまさら」は不登校児や登校渋りのある子どもと家庭支援事業です。学生が子ども一人一人に合った遊びを企画し、子ども自身が楽しめるサークルであると共に、親御さんのお悩みに寄り添える場所になっています。

11月28日に新メンバーを交えての「いまさら」についての説明会、1月23日に支援者のための学習会を行いました。他大学の活動や不登校支援に関することについて学んだことを発表し、様々な活動や事業について話し合いをしました。今後の見通しや実際に取り入れてみたい事例など意見交換をしながら話を進めていきました。今後の「いまさら」の活動において参考になる企画や事例があり、とてもよい学習会となりました。「いまさら」の活動をより良いものにしていくためにも、学びを深めることが出来ました。またいまさらを多くの人に知ってもらうためにチラシをつくって、小・中学校に紹介しました。

は♪あ♪い

「は♪あ♪い」はわらべうたを導入した親子のコミュニケーション促進をサポートするインクルーシブな子育て支援プログラムです。10月25日、11月22日、12月13日に開催いたしました。学生が中心になって準備や運営を行います。会場はいつも笑顔にあふれています。次回を楽しみにしてくださって、参加される家族が増えてきて、3・4年生中心で活動を行っていますが、1・2年生にも「わらべうた」の魅力や楽しさを知ってもらいたいと1月16日、1月18日には3年生が「は♪あ♪い」説明会を1・2年生対象に開催しました。

また10月20日、2月16日には、「は♪あ♪い」の企画段階からご指導いただいているノートルダム清心女子大学教授 湯澤美紀先生をお招きして、子ども家庭しあわせ学習会を開催しました。テーマは「子どもも大人も笑顔になるわらべうたの魅力をもっと知ろう」です。子どもも大人も学生も、みんな「わくわく、どきどき」で、始まった会ですが、わらべ歌が始まると湯澤先生に「わらべうた遊び」の魔法をかけられたように子どもも大人もわらべ歌の世界に入り込み、楽しむことが出来ました。学生にとって、わらべ歌の魅力を再考し、さらに学びたい、体験したいという意欲を高める良い機会になりました。

APPLE

「APPLE」は、研究員のこれまでの研究や保健センター、関係機関(保育所・幼稚園・認定こども園、児童発達支援センター等)との連携からニーズの把握・整理を行った上で、プログラムを考案しました。今年度は、自閉スペクトラム症の診断のある幼児(以下、ASD幼児)とその保護者を対象とした早期支援プログラムとして、協力が得られた2歳代のAくんとその保護者を対象に実施しています。また、実践過程で得られた情報を整理し、幼児期にある自閉スペクトラム症の子どもとその保護者への早期支援のあり方を検討するという研究活動とも連動させています。さらに、得られた知見を日常的・継続的に支援を行う児童発達支援センターや保育現場に還元することを最終ゴールとしています。後期は、10月24日、1月30日の2回開催いたしました。Aくんは研究所で様々な遊びにチャレンジして、研究員とのかかわりの中でとても可愛い姿を見せてきています。学生子ども家庭ソーシャルワーカーは、Aくんの興味・関心に合わせて教材・玩具を製作しました(チーム名「あつるばい」)。また、研究員がAくんと保護者を支援する場に同席したり、ビデオを見たりして学んでいます。研究員も学生子ども家庭ソーシャルワーカーもAくんのこれからの成長が楽しみです。



BRIDGE

「BRIDGE」は、特別支援学校の中等部や高等部に通う生徒と山口県立大学社会福祉学部の学生が、ともに大学で学び合うインクルーシブな学びの場です。大学を始めとする高等教育機関において特別支援学校で学ぶ生徒や山口県立大学社会福祉学部の学生が「自分」について考え、将来に活かしていく場にしていきたいと考えて設けられた場です。今年度の第2回目が12月15日に第3回目が2月9日に開催されました。第2回の活動では、「他者から見られた自分と自分で思う自分の違い」をテーマに第3回目では「過去の自分」について学び合いを行いました。



LIEN

今年度の「LIEN(リアン)」は、医療的ケア児及び重症心身障害児とその家族の支援にかかわっていらっしゃる支援者同士の交流と学び合いの場を企画しました。児童発達支援センターや相談支援事業所、特別支援学校に勤務する支援者の支援観や日常の支援の中で抱えておられる課題を共有する時間として、1月9日に第2回目をオンラインで開催しました。児童発達支援センターに勤務する卒業生も参加しており、「この時間を通して、自身の役割を再考するとともに、支援者としてもっと成長したいという気持ちが高まりました」と嬉しい声が聞かれました。また、研究所の準備段階から協力いただいている医療的ケア児Bちゃんとお父様が来所され、学生がBちゃんと楽しい時間を過ごしました。

「LIEN」では、Bちゃんのご家族の声をはじめとした当事者のニーズも把握しつつ、支援者の専門性について今後も探求していきたいと考えています。



山口県立大学地域交流スペースYuccaとの共同事業

ママかんフリーカフェ

ママかんフリーカフェは、発達の気になる子どもの家族を対象とした子育てサロンとして、本学の地域共生センターの事業として長年開催されてきた事業です。藤田所長と障害児教育研究室の学生が中心となり、運営しました。

今年度は、7回開催し、のべ81人の参加者がありました。

参加したご家族からは、「最初は緊張しましたが、ここで悩みを言うことができ、聴いていただき、気持ちが楽になりました」「先輩ママの言葉があたかくて、元気ができました。毎回参加したいです」「学生のすてきな運営に癒されていつもほっとしています」等、とてもうれしい感想をいただいています。

来年度から「ママかんフリーカフェ」が、Yucca事業から研究所の地域連携事業として開催することになります。今後も、参加されたご家族にとってよりよい時間となるよう運営していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



スマイルピアカン

「スマイルピアカン」は、未就園児を子育て中の保護者の語り合いの場です。参加者が、子育てにまつわる思いを語り合い共有することで笑顔になってくださることを願って、命名しました。以前、本学地域交流スペースYuccaで「子育てピアカウンセリング」として、2008～2018年に行っていた企画が、今年度「子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所」の開所に伴いリニューアルオープンしたものです。

今年度は、6月、9月、12月、2月の第3金曜日に、カフェタイムも含めて毎回2時間程度、4回開催しました。10人未満のささやかな集いですが、授乳・離乳、トイレトレーニング、外出・自分の時間、子どもをめぐる人間関係など、毎回メインテーマを設定して語り合いました。コロナ禍も含めて、令和の時代に子育てをしている保護者の話を聴きながら、また研究所スタッフの上野、長廣も、ファシリテーターの大石も、それぞれの子育て経験を語りながら、時代が変わっても子育てで気になることや悩みは変わらないことを実感し、一方で親を取り巻く子育て環境の変化も実感しました。

子どもたちは、保護者と同じスペースで、保育ボランティアの大学生と研究所スタッフに遊んでもらいながら、時折母親のひざに戻ってきます。完全に分離して託児をするスタイルではなく、母親が見える距離で行き来しながらゆっくりと母子分離が図れるように工夫しているところも、この集いの特徴です。

